

評価結果概要表

作成日 平成 21 年 7 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0590500047号
法人名	シャカイフクシ ホウジン ユリ ホンジョウシ シャカイフクシ キョウギカイ 社会福祉法人 由利本荘市社会福祉協議会
事業所名	グループホームきざくら
所在地	由利本荘市東由利老方字後田70-3 (電話) 0184-62-4788

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年6月8日

【情報提供票より】 (平成21年5月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 22 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	13 人 (常勤 8 人 非常勤 5 人 常勤換算 6 人)

(2) 建物概要

建物構造	平屋 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低 71 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本荘第一病院
---------	--------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

事業所は田園に囲まれた自然豊かな閑静な場所に立ち、「道の駅」などに「きざくら通信」を置き、広く地域の方々に事業所の理解を深めるために工夫している。
 管理者と職員とで理念を見直しており、利用者及び地域に愛される事業所をめざし、利用者の個性尊重や地域とのふれあい、安全・安心な生活環境づくりを理念に掲げているほか、利用者が「してほしいこと」「してほしくないこと」を職員が自ら考え、理念の具体化及び実践に努めている。
 また、職員が生き生きと楽しみ、やりがいを持って日々の業務にあたっており、何よりも「傾聴」することを大切にしながら利用者一人ひとりの意向に沿うよう支援するなどケアに直結している。
 今後は、利用者の徘徊時や緊急災害時における近隣住民の協力体制や行政との連携を密にしながら、地域の福祉拠点としての役割・機能を模索し、地域の一員としてできることに積極的に取り組むことを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	洗剤類の保管方法について、倉庫や洗濯場、脱衣所に鍵を設置し、常時施錠しながら管理するよう改善しているほか、利用者への言葉遣いなどの接遇面や個人情報の取り扱いについても改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	管理者が交替して間もないこともあり、今回は管理者が職員の意見を聞きながら自己評価を行っているため、今後は職員一人ひとりが自己評価に取り組み、事業所全体で課題や認識の共有に努めてほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では事業所の運営状況などを中心に報告し、委員の意見を求めている。今後は、事業所内で開催して委員の負担軽減を図るとともに、会議の役割・機能を再確認しながら外部評価結果の課題を提起し、積極的に助言や意見を求め事業所の効果的な運営及びサービスの向上に生かしてほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	あえて意見箱は設置せず、家族会で意見を集約したり、毎月の自宅訪問時などに家族の意見や要望を確認している。今後は、独自で意向調査を行うなど利用者及び家族の潜在的なニーズ把握に努めてほしい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣住民の畑を借りての畑作業や、地域の祭りなどへの参加、保育園児や小学生の慰問など交流を図っている。また、民生委員等の働きかけで「うつ病」で引きもりがちの方を折り紙の講師に招くなど、地域の交流拠点として有効に活用している。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	【運営理念】 私たちは、利用者及び地域住民に愛される福祉の拠点を目指し次のことを大切にします。 1、利用者一人ひとりの個性 2、地域とのふれあいと絆 3、安全で安心できる快適な生活環境づくり	○	地域での畑作業をとうしながらボランティアや声かけしてもらったり、散歩時などに近所の人と話したり野菜をもらったり、保育園に笹巻きをくばったり地域の行事に参加したりして地域にとけこんでいる	昨年度に管理者と職員とで理念を見直し、利用者の個性の尊重や地域とのふれあい、安全・安心な生活環境づくりを掲げ、利用者及び地域に愛される事業所をめざしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や職員がよく目につくところに掲示し日々実践に向けて取り組んでいる。			日々の話し合いや毎月のミーティング時に理念を再確認し、実践につなげている。 また、開設時に職員が「してほしいこと」「してほしくないこと」を利用者の立場になってカードに書き出し、共有空間に掲示して理念の具体化に役立てている。	○	今後は、利用者本人から「してほしいこと」や「してほしくないこと」を聴き取り、より具体的な実践につなげてほしい。
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットやきざくら通信、重要事項説明書により理念の浸透性を高めている。					
2. 地域との支えあい								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域での畑作業をとうしながらボランティアや声かけしてもらったり、散歩時などに近所の人と話したり野菜をもらったり、保育園に笹巻きをくばったり地域の行事に参加したりして地域にとけこんでいる	○	いろいろなきざくらでの行事にも参加してもらえよう取り組んでいきたい。			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、地域の草むしり、行事、回覧板等孤立しないように交流に努めている。			近隣住民の畑を借り、利用者と住民、職員とで一緒に野菜を育てており、地域の祭りなど行事にも参加している。 また、保育園児や小学生が慰問に訪れたり、民生委員等の働きかけで「うつ病」で引きもりがちの方を折り紙の講師に招くなど地域の交流拠点として機能を還元している。 さらには、利用者の徘徊時の連絡や地震などの災害時には近隣住民が駆けつけてくれるなど、地域の協力体制ができています。		
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の社会資源と連携し一人暮らしの方や鬱の方、引きこもりの方、身障の方が孤立しないよう行事を開催したりしながら参加してもらっている。	○	広報等利用しながら参加を増やしたい。			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価後に自分たちの支援の再確認を行い良かったところや改善点を見直している。			管理者が職員の意見を聴きながら自己評価を行い、前回調査で課題とした事項については、職員会議で検討しながら具体的な改善につなげている。	○	管理者のほか職員一人ひとりが自己評価に取り組み、職員間で考え方や意識、課題を共有しながら事業所全体での質の向上に生かしてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際の現況に加えて災害時のシステム化や協力体制、地域に開かれた施設にするための話し合いや協力要請を行い施設でのサービス向上に生かしている。			運営推進会議には地域の歯科医院や地域サポート運営委員などが参画しており、事業所の運営状況等について報告している。	○	定期的開催できていないことから、外部評価結果での課題を提起して意見や助言を求めるなど、委員会の機能を再確認しながら効果的な運営につなげてほしい。 また、会議の開催を事業所内で行い、必要に応じて職員も参加するなど、効率的な開催方法を模索してほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	運営推進会議以外は地域の困難事例や相談にのるくらいしかできていない。	管理者が毎月ケア会議に出席して情報を得ており、行政とは生活保護の利用者や空き状況等について相談・連携している。 また、過去の地震発生時には行政担当者が駆けつけて被災状況を確認するなど、災害時における連絡体制も確立している。	○	保健センターの栄養士や地域包括支援センターの保健師など、関連部署への助言・協力を求めたり、講師を依頼するなど連携強化に努めてほしい。
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	精神疾患の利用者で家族がいなかったため姪に選任をうけてもらった。(マニュアルがあり必要のある方には利用したりケースとして話し合っている。)					
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会やいつでも職員が目につくところにマニュアルがあり職員間どうして虐待を見過ごさないようにしている。					
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は重要事項等使用しながら十分な説明を行い、退去の際は納得が得られるような次の施設につないだり、利用者の希望に沿うようにしている。					
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者とは会話する時間を大切にし、様子がいつもと違う時などは隠されたニーズや不満を引き出すようにし解決に結びつけている。認知症になると不満やストレスが病状の進行を進めてしまうので重要であると考えている。					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に、利用者の家族には手紙や写真、預かり金の利用状況、預かり金の領収書を送付し現況を報告している。			近隣の方が多いため、毎月利用者とともに自宅を訪れ、利用者の健康状態や金銭管理状況などを報告しているほか、遠方の方には電話や手紙で知らせている。 また、写真つきで「きざくら通信」を毎月発行し、行事などの事業所内の状況を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来館した際はいろいろな意見を教えてもらったり、聞いたりしている。それ以外にも、定期的に家族会を開催し情報をいただき反映するようにしている。	○	家族参加の行事を増やす。	あえて意見箱は設置せず、家族会で意見を集約したり、毎月の自宅訪問時に家族から意見や要望を確認している。 また、普段から利用者及び家族が意見を述べやすいよう常に「傾聴」を心がけ、信頼関係の構築に努めている。	○	利用者及び家族への意向調査の実施など、潜在的な思いやニーズを把握するための取り組みを工夫してほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の打ち合わせや、定期的なミーティング、そのつど職員の意見を反映し施設をより良くするよう心がけている。					
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員が手薄にならないように非常勤職員と共に柔軟な対応に努めている。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	4月に看護職員が移動しているが現在も連携しながら週何回かは来館しダメージを最小限にしている。			利用者への支援は担当制としているが、日常的に全職員で関わっているため、利用者の精神的負担を最小限に抑えている。 また、異動時には家族にも報告して納得を得ている。		
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なるべく研修会に参加したりミーティングにて研修は行っている。仕事上のことはそのつどスーパーバイズを行っている。	○	研修会を増やしスキルアップにつなげたい。	法人本部から情報を得て、職員が希望する研修に参加する仕組みがあり、全職員が受講している。 また、内部研修を通じて研修成果を報告し、全職員で知識や情報の共有に努めている。	○	職員一人ひとりの職種や経験、目標などに応じて年間研修計画を作成し、段階的かつ計画的なスキルアップにつなげてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの由利本荘地区連絡協議会に参加し勉強会やネットワークづくりをしている。			圏域の連絡協議会に加入し、管理者及び職員が他事業所の視察や情報交換の機会としているほか、研修参加により他事業所との交流を図るなどサービスの向上につなげている。		
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事の技術面ではそのつど話を聞いたり、解決策を一緒に考え休憩もなるべくゆっくり休めるようにしている。	○	他施設との交流を増やすなどして同じ仕事上の問題を話し合えるような場を連絡協議会でも作っていききたい。			
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		○	職員個々に日々努力し実績を上げている。手当等少しでも職員にいくようにして向上心を持って働けるように努めていきたい。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	支援をしていく上で受容や共感する姿勢や態度は大切にしているので少しでも多く機会を作るようにしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族は苦渋の決断により大事な身内を入居させている。連絡を取り合ったりいつでも来館していただけるような雰囲気作りや不安に対応できるよう日頃から努力している。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの役割やその人に合ったサービスを提供できるよう他サービス（ショート、特養、デイサービス、ヘルプサービス等）を利用した生活スタイル等も情報を提供している。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用する前には必ず本人が家族と何回か来館しインテークにより利用していただくようにしている。（本人が拒否するのに利用にはつなげられないし、トラブルの原因になりかねない。）			利用希望時には家族と共に見学に訪れ、短時間でも事業所で過ごしてもらうことで雰囲気を体感し、職員や他利用者との関わりを持ちながら、利用者本人が納得のうえで利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に利用者の方が人生の先輩であるため学び、共に喜びや笑い、症状改善やリハビリの意欲につながるよう支援している。			利用者のこれまでの経験を尊重し、山菜の処理方法や笹巻き、漬物のつくり方、畑づくりなどを教わり、一緒に行うことで互いに支え合う関係を築いている。 また、日々の関わりの中で教わるが多いため職員も楽しみ、双方に役立っていると喜んでいる。		
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	連絡は密に行い状態にあわせ協力していただいている。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでのライフスタイルや家族との関係がより良い方向へ向けるように支援をしている。					
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの場所にはよく出かけたりしている。顔なじみの方も家族、本人の了解や個人情報のお話を一通りしてから来館は自由にし行き来している。					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が助け合い相互作用により回復できるような関係作りをしている。レクや行事、日頃の会話にも職員が気かけながら介入している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても社会資源として地域の住民との関係は良好に保ちたいので大切にお付き合いしている。（いろいろな相談援助にのっている。）					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランにより本人や家族の希望や意向を繁榮している。			事業所の理念に基づいて「傾聴」を基本方針として対応しており、日々の暮らしの中で声かけしながら一人ひとりの意向や希望をうまく引き出し、希望に沿うよう支援している。		
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援をしていく上で必要な生活歴を大切にし生活の場は変わるが生きがいや趣味生活環境は今までどおり安心して暮らせるよう支援している。					
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録、モニタリング等とおしながら総合的に把握するよう努めている。					
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、今までサービスを提供していた事業者から情報を提供していただきながら介護計画を作成している。現在はケース会議等にていろいろな意見を取り入れながら計画を作成している。			担当者が利用者の状況や家族の意向、関係者からの聴き取りによりアセスメントし、全職員で検討しながらチームによる介護計画を作成している。 また、計画には日常生活の中で実行可能な目標をたて、その人らしく過ごせるよう支援している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングや状態変化に応じて介護計画の見直しを行っている。			半年ごとの定期的な見直しと、毎月のモニタリングにより必要時に見直ししており、職員の提案や家族の意向を組み合わせながら、現状に即した計画を立てている。		
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の記録や気づきを記入し新たな情報やニーズがあれば計画の見直しを行っている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	リハビリでも外出リハ、散歩、畑、回想法、作業療法、日常動作訓練となるべく柔軟に対応しその人らしい生活ができるように支援している。			通院への付き添いやリハビリを兼ねた外出、毎月の自宅訪問など利用者及び家族の状況や希望に合わせて柔軟に対応している。 また、法人内に看護師を配置し、週2回の訪問や24時間の対応を可能にし、医療連携体制も確保している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	敬老会では民生委員、ボランティアでは地域住民、避難訓練では消防、交流会では小学校、保育園、身体面では医療機関と協力していただきながら支援している。					
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地元の特養やグループホームなど申請している場合や、一人暮らしで生活できないほど認知症が進行してしまっている場合などケアマネジャーと話し合いを持ち本人にとって一番良い支援ができるよう努めている。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターとは日頃から協力しながら地域の課題を解決するよう協力し相談へ行ったり、来ていただいたりしている。					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に沿ったかかりつけ医、歯科医、薬局を利用している。			利用者の主治医のほか、事業所の協力医への通院や治療により、利用者の健康管理に努めている。 また、運営推進会議の委員となっている歯科医院との連携や看護師による対応など連携が充実している。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	組合病院、第一病院、小松医院、菅原病院等にて認知症に関する相談をしたり適切な治療が受けられるよう支援している。					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常の健康管理には看護を中心に相談しながら医療機関を活用して本人の状態に合わせた支援をしている。					
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	常に医療機関とは利用者の状態や情報交換をしながら連携を大切に支援している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルでは本人、家族、医療機関と連携しながら方針を決定している。			これまでに看取りのケースはないが、日々のケアを通して必要性を感じており、協力医との連携体制も確保している。 また、利用者及び家族の希望に応じて対応する方針があり、重要事項説明時に同意を得ている。	○	看取りに関するマニュアルや状態変化に伴う個別の同意書等の整備、関係医療機関との連携体制の充実など、組織としての体制のあり方を職員間で検討しながら整備してほしい。
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ではできる限り利用者の訴えを尊重し支援していき本人、家族、医療機関とは話し合いを行っているながら支援している。					
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までと違う場所で暮らすダメージを少しでも減らせるよう努めている。					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1)一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		○	個人情報保護しているものの、記録の書き方などまだ不備が見受けられるので指導を徹底したい。	利用者への声かけは優しく丁寧で、同じ言動を繰り返す方にも真摯に受け答えするなど利用者を尊重している姿勢がうかがえる。 また、個人情報保護に関する同意書を作成し、個人ファイルは鍵付きのキャビネットに保管するなどプライバシーにも配慮している。		
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言語的、非言語的コミュニケーションや7原則を用いながらニーズを抽出しわかりやすいプラン作成と説明を行い納得した暮らしができるよう支援している。					
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態やペースに合わせて希望に沿って支援している。			利用者一人ひとりの意向を優先し、あえて日々のスケジュールを決めず、寝たい時に昼寝してもらするなど柔軟に対応している。 また、食事場所は居室か食堂で、入浴日や時間帯も制限せず、起床・就寝時間も強制しないなど、自由に過ごしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用、美容は本人の望む店に行ったり来ていたりしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	金曜日は利用者の食べたいメニューを提供したり、季節によっては、山菜や旬の食べ物（ハダハタ）等を提供している。食事の準備や片付けなど利用者一人一人役割を持ちながら行っている。			契約業者に食材を届けてもらい、利用者と職員と一緒に調理を行い、曜日を決めて利用者の食べたいメニューを採用している。 また、利用者の状態に合わせて箸を並べるなどの役割を持たせ、役立っているという喜びを感じて食欲増進につなげている。 さらには、それぞれに異なる茶碗やコップを使い、行事の際は外食に出かけるなど柔軟に対応している。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者に合わせ日常的に楽しめるようにしている。					
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	車いすの方でも昼夜、トイレ誘導等、排泄チェック表等りようしながら支援している。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴の決まりはないので好きな時に入れるようにはなっている。希望のある日は、毎日入浴する方や、以前は夜間に入る人もおりタイミングや入浴が楽しめるような支援はしている。			浴槽は檜づくりで、いつでも入浴できるよう支援しており、一部介助が必要な方には背中や手足の洗いを手伝い、なるべく自力での入浴を促している。 また、介助時は孫に洗ってもらうような感覚で、同性介助についても利用者は理解しており、入浴を拒む場合でも無理なく促している。	○	温泉入浴について利用者から要望があり、管理者も実現させたいと意欲的であることから、体制などについて職員間で話し合いながら取り組むことを期待したい。
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝る時間も利用者に合わせている。（食後の片づけ後は会話したりゆっくり安心して寝られるような支援を心がけている。）					
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームでの一人一人の役割やアクティビティを大切に、天気の良い日は外出リハビリを兼ねてダリアや桜、つつじ、ヒマワリなどを見て気晴らしをしている。	○	家族ももっと参加できるような形にしていく。	洗濯や掃除、食事の準備など役割を持ち、畑作業や山菜採りなども一緒に行い、利用者に役割意識を持ってもらっている。 また、回想法の一つとして昔の日用品や三味線、尺八、横笛、野良着などを手にとれるよう飾り、利用者の趣味や好みに応じて自由に使えるよう工夫している。		
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している					
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態に合わせて戸外に出かけられるよう支援している。時期によっては頻繁に自宅の畑等気になる利用者もいるが家まで送迎し外出リハビリとして対応している。			利用者が比較的軽度なこともあり、散歩や買い物など日常的な外出のほか、畑作業や山菜採り、ドライブなどリハビリを兼ねての外出を支援している。 また、車イスの方でも外出できるよう体制を整え、毎月の自宅訪問など支援している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段いけないところや、行ってみたいところなど季節に合わせて出かけている。					
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙はやり取りできるよう支援している。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人など気軽に訪問できるようにしている。来館の際は、居室、ホール、談話室、くつろぎのスペースにてコーヒー等のみながら居心地良く過ごしていただけるよう努力している。					
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在のところ身体拘束しないケアに取り組んでいる。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中玄関には鍵をかけず、一般の人でも来館しやすいように正面の戸は開放している。			表・裏玄関には鍵をかけず、表玄関にはベルをつけて外出を把握し、外出時でもともに散歩するなど見守りながら対応している。 また、地域の方による見守り連絡体制があるほか、事業所周辺の危険箇所も確認している。		
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は3~4人で把握し、夜間も巡回をしながら様子観察している。					
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	倉庫、洗濯室には危険防止のためロックをしている。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		○	リスクマネジメントについてお互いにヒヤリハットを通して意識や注意する力をつけてはいる。今後も職員の意識改革を進めたい。			
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	消防を交えて訓練等実施している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力体制や消防への協力体制、行政等、入居者が避難できる方法や働きかけは行っている。				運営推進会議に消防団長が参画しているため、年2回の防災訓練には地域住民が参加し、消防訓練と一緒に実施するなど協力・連携している。 また、救急対応マニュアルを整備し、火災報知機の設置や緊急連絡先を掲示しており、スプリンクラーの設置も予定している。		
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについてや今後の状態の可能性等はつたえてある。これからも本人にとって抑圧感のない暮らしを大切にしていきたい。						
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援									
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常日頃からバイタルチェックや体調の変化にはきくくばり気づいた際は話し合い早急に対応している。						
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診前の話し合い医療連携シート等利用し、受診後の薬の変化、作用、副作用について周知理解するよう努めている。						
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる		○	食べ物、運動、薬の管理等行っているが、運動に関してもう少しやった方がよいと感じる。				
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている		○	夜間のみしか確認していないので今後は検討していきたい。				
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量などは毎日確保できるようにしている。(夏場などは畑作業前後でも水分補給を行っている。)				献立の作成と食材は業者に委託しているため、カロリー計算や栄養バランスがとれたメニューとなっており、食事チェック表により一人ひとりの摂取量を把握している。	○	栄養バランスやカロリー計算は業者に任せているが、利用者一人ひとりの摂取量が異なるため、母体法人の栄養士等に定期的に点検してもらうなど、栄養バランスに偏りがないよう努めてほしい。
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員が媒体にならないよう日頃から手洗いうがいは徹底しマニュアルなどを通してノロウイルス等予防には日々次亜塩素酸入り消毒液にてみんなが振れる可能性のあるところは消毒している。						
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はタイヘイから送られてきているので安全で、調理器具についても消毒しているので管理はしている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1) 居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花などを飾り安心して出入りできるように工夫している。					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は毎日行い、生活空間は利用者の制作した作品や写真等を掲示し居心地が少しでも良くなるように工夫している。			玄関正面に畳敷きのスペースがあり、そこに昔の道具や日本の楽器類、趣味の手作りの品などを飾り、腰かけながらくつろげる空間となっている。 また、建物内は清潔で明るく、各居室に隣接する形でトイレを多く設置しており、利用者の快適で心地よい空間づくりを工夫している。		
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎのスペース等にて回想法や民謡などを歌ったり踊ったりしながら楽しんでいる。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや親しみのあるもの、位牌等本人が居心地がよく安心して生活できるよう工夫している。			居室にはベッドとクローゼット、洗面台を常設し、利用者の好みの家具を持ち込み、家族の写真や花、ぬいぐるみ、時計、カレンダーなどを飾り心地よい生活環境を整えている。		
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気などを定期的に行いきれいな空気を入れるようにしている。					
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中にもリハビリや作業療法を取り入れているため安全で自立した生活が送れるようになっている。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表札等利用しながら本人のわかる力を生かし自立して暮らせるように工夫している。					
	87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている		○	日向ぼっこや山を眺めたりしながら過ごす時には利用しているが、今後はレク等にも使用していきたい。			

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員一人ひとりがハートで仕事をしていて、利用者の気持ちにそうように、楽しんでいただけるように努力している。活動も多くドライブでは増田町で花見をしたり漫画美術館を見学したり、つつじを見に本荘公園へ出かけたり、菜の花やひまわりを見に西目に出かけたりと多く外出リハビリでもマンネリ化しないようにしている。他に行事として地域の祭りに参加したり、踊りボランティアを呼んだり、保育園との交流もある。天気のいい日は畑や散歩などする利用者もいる。疼痛やリハビリについてはホットパックをりょうしたりリハビリ体操や歌の体操など多彩である。